



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3758号 2017.7.7 発行

津久井やまゆり園事件、現場を初公開

日本経済新聞 2017年7月6日

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者19人が刺殺されるなどした事件から1年を迎えるのを前に、神奈川県は6日、現場となった施設内部を報道陣に初めて公開した。家具や畳が撤去された広大な施設は、凄惨な事件の爪痕をうかがわせた。



元職員の植松被告は左の部屋の窓ガラスを割って侵入し、次々と入居者を殺傷した(6日、相模原市の「津久井やまゆり園」)

事件は昨年7月26日未明に発生。元職員の植松聖被告(27)＝殺人罪などで起訴＝が窓ガラスを割って同園に侵入、包丁で入所者らを次々と襲った。19人が刺殺され、27人が負傷した。入所者は事件後、他の施設に転居し、同園は現在、無人となっている。

侵入口とされる1階の居室は窓ガラスが修復され、目立った痕跡はうかがえなかった。一部の部屋は事件後の清掃で畳が取り外されたといい、床がむきだしの状態。日光が差し込むなか、殺伐とした空気が漂っていた。かつてはにぎわった食堂や活動室はがらんとし、中庭には伸びた雑草が茂っていた。

施設を巡っては、神奈川県の特設部会が再建方法を検討。8月上旬にも、検討結果を提言としてまとめる方針だ。

障害のある子供に学習支援 放課後等デイサービスで

教育新聞 2017年7月5日

今夏から、大阪府と栃木県で、クラウド型学習システムを導入した放課後等デイサービスによる学習支援が始まる。システムは㈱すららネットが提供。同府では7月から「個別療育センター ココスマイル」で、同県では8月から「放課後等デイサービス グローバルキッズメソッド西原店」で運用が開始される。

放課後等デイサービスとは、発達障害や学習障害など、障害のある通学中の子供が、放課後や長期休暇中に利用できる施設。同システムの特長である適応学習機能と人口知能で、効果的な個別学習の提供を目指す。

導入するのは同システムの小学校低学年版。一般の小学校低学年の児童はもちろん、障害のある子供でも取り組みやすいよう、(公社)子どもの発達科学研究所監修の下で、カリキュラム構成や画面の見やすさ、理解のしやすさを考慮して制作された。個々の理解度や進度に合わせて学習内容を提供する「アダプティブ・ラーニング」機能や、先生の代わりに学習者と対話する人工知能など、同システムの特長を学習支援に生かす。

放課後等デイサービスは平成24年4月、障害のある子供たちの生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流促進などを目的に制度化。だが、事業者が提供する支援内容の

質にバラつきがあったため、利用する子供や保護者の多種多様なニーズに必ずしも応えていない状況が問題視されていた。厚労省は平成27年4月にガイドラインを制定し、今年4月からは事業所の開設要件を厳格化して、質の高い支援の提供を促している。

こども支援SSE 発達障害に居場所を 上田に開設 親子相談や情報交換 /長野

毎日新聞 2017年7月6日

子どもの発達に悩む人や集団生活などが苦手な子どもに居場所を提供する事業所「こども支援SSE」が1日、上田市中心3の「リンクスペース」に開設された。事業所の代表で、発達障害の子どもを持つ天田かよ子さん（47）が子育てや療育などについて相談を受ける。SSEは、「共生（Symbiosis）」「自立（Self-reliance）」「共感（Empathy）」を意味とする英語の頭文字で、誰もが気楽に立ち寄れる居場所を目指す。【ガン・クリスティーナ】

天田さんは学生時代、自閉症など発達障害の子どもを持つ母親を手伝うボランティア活動をしてきた。



認知症戦略、政府が大幅拡充 サポート医1万人に倍増 共同通信 2017年7月5日

認知症対策の関係省庁連絡会議で講演する藤田和子さん（右）＝5日午後、厚労省



政府は5日、認知症対策の関係省庁連絡会議を開き、2015年に策定した国家戦略（新オレンジプラン）の数値目標見直しを正式に決めた。20年度末までに、地域の認知症医療の中心的な役割を担うサポート医を現行目標の2倍の1万人養成するほか、当事者や家族を支える市民サポーターを国民の約10人に1人に当たる1200万人に増やす。

目標引き上げは、17年度末までとした現在の設定がおおむね達成できる見通しとなったため。25年には認知症患者が高齢者の5人に1人に当たる約700万人に達すると推計されており、対策を加速させる。

元道新販売所員 懲役5年を求刑 札幌地裁 北海道新聞 2017年7月6日

同僚の頭をつるはしで殴って殺害しようとしたとして、殺人未遂の罪に問われた小樽市新光4、元北海道新聞販売所社員中（なか）新吾被告（24）の裁判員裁判の論告求刑公判が6日、札幌地裁（島戸純裁判長）であり、検察側が懲役5年を求刑して結審した。判決は11日。

検察側は「殺傷能力の高い凶器で、被害者の頭を狙い相当強い力で殴った。犯行は危険で悪質」と指摘した。弁護側は「1回殴った後、すぐに逃げて攻撃を続けなかった。発達障害の影響で、危険性を判断せずに行動に及んだ」などと述べ、殺意を否定。傷害罪の成立にとどまるとして、執行猶予付き判決を求めた。

障害ある姉に食事与えず衰弱死させた疑い 夫婦を逮捕 NHKニュース 2017年7月6日

知的障害がある50歳の姉に食事をほとんど与えず衰弱させて死亡させたとして、群馬県安中市の30代の夫婦が保護責任者遺棄致死の疑いで逮捕されました。調べに対し、いずれも容疑を否認しているということです。

逮捕されたのは、群馬県安中市の佐藤正夫容疑者（30）と、妻の恵美容疑者（31）です。

警察などによりますと、2人は、ことし2月、自宅で同居していた知的障害があつて介助が必要な恵美容疑者の姉の萩原里美さん（50）に、食事をほとんど与えず衰弱させて死亡させたとして、保護責任者遺棄致死の疑いが持たれています。

ことし2月、恵美容疑者から「姉が冷たくなっている」という通報が消防にあり、萩原さんが低体温症で死亡しているのが見つかったということです。

調べに対し、佐藤容疑者は「やるべきことはやった」と、恵美容疑者は「一部違うところがある」と、いずれも容疑を否認しているということです。

障害者を殺害予告 容疑の男を逮捕 愛知県警 日本経済新聞 2017年7月7日

多数の障害者を殺害する内容の予告メールを愛知県障害福祉課に送ったとして、愛知県警中署は6日、名古屋市千種区桐林町2、無職、市原貴史容疑者（39）を威力業務妨害容疑で逮捕した。中署によると「障害者福祉に関わる職員に不満があった」と供述している。

中署によると、市原容疑者はメールで、相模原市の障害者施設で19人が刺殺されるなどした事件に言及し、450人以上の障害者殺害を予告。県内に実在する施設名も記載していた。

逮捕容疑は4日午後4時15分ごろ、県障害福祉課に殺害を予告するメールを送信し、業務を妨害した疑い。県職員が5日、県警に相談し、施設に注意を呼びかけていた。

障害者施設で社員研修 できることを伸ばす — 人材育成の原点 「ふくしごと」の提唱 西日本新聞 2017年07月06日

「工房まる」で障害者と接して研修するJR九州の社員たち

●人間は多様だから、接し方もそれぞれ

面白い社員研修を見た。障害者施設を視察して障害者と接することで、多様性を学び、新しい価値観を持った人材を育てる。福祉とビジネスの融合を目指す会社「ふくしごと」（福岡市博多区）が、そんな新しい形の人材開発研修を企業などに提案し、好評を博しているという。



6月下旬、福岡市南区の障害福祉サービス事業所「工房まる」。絵画や陶芸、木工に励む障害者の姿を、JR九州（同市）の女性社員9人が見つめる。時折、声を掛けては談笑し、障害者と支援員とのやりとりにも耳を傾ける。この間、みっちり1時間半。

熊本や大分などJR九州の主要駅で働くチーフリーダーの研修の一コマだ。まるに通う身体・知的・精神とさまざまな障害がある人たちと接した後は、施設長の吉田修一さん（46）、NPO法人「まる」代表理事でふくしごと副社長でもある樋口龍二さん（43）に、疑問や感想をぶつけた。

「皆さんが生き生きと楽しそうに作業しているのに驚いた」「人と話すことや会うことが苦手だという通所者には、どう接しているのか」「障害や特性が一人一人違うが、どうやって会話を引き出すのか」…。参加者から質問があふれる。吉田さんたちは「時間はかかっても、一人一人に合った手だてを用意する」「先に商品ありきではなく、その人ができることから商品や工程を考えている」「まず人間対人間の関係を築く」などと、明快に答えている。

熊本駅勤務の高木菜美さん（29）は「『どうしてできないの？』と後輩を指導してきたが、得意なことやできることを伸ばすという視点を得られた」。大分駅勤務の大塚美由紀さん（34）は「個人ができることから仕事をつくっていくというアプローチは新鮮。今後の仕事に生かしたい」と話した。

障害者施設を活用したふくしごとの研修は2015年に始まった。九州の企業・自治体の幹部候補生が参加するNPO法人「九州・アジア経営塾」(KAIL)の次世代ビジネスリーダー養成講座では15～16年、プログラムの一つに採用。今年は、JR九州や福岡経済同友会なども研修に取り入れている。

JR九州は、KAILの研修に参加した営業部担当部長(現人事部長)の三浦基路さん(47)が「障害の捉え方など、企業人として視野を広げるきっかけになった」と、自社の研修に組み込んだ。

そもそも、ふくしごとは15年2月、九州に約5400あるとされる障害者施設が手掛ける商品を発掘し、流通させることで、障害者の自立につなげようと設立された。建築・設計、デザイン、福祉などのプロ5人が取締役を務める。

活動の中で、障害者施設が日常的に行う「できることを支援して伸ばす」という視点と技術が一般企業の人材育成に生かされると気付いた。研修では、実際に施設に足を運んでもらい、樋口さんや社長の橋爪大輔さん(48)が気付きを促す。参加者は障害者との接し方はもちろん、「待つことを覚えた」「部下が失敗したとき、何か理由があったのかもしれないと話合ってみた」など、同僚や部下とのコミュニケーションを省みる人が多いそうだ。

橋爪さんは「障害者や障害者施設自身も気付いていない価値を、形にして社会に発信したい。それが障害者の抱える課題だけでなく、社会の何かを変える可能性を感じる」と言う。確かに、ふくしごとの研修は、障害者への理解を深める上、その人らしく働くとはどういうことか、それぞれの働き方を振り返る機会になる。橋爪さんの言う「可能性」の一端が見えた。

図書館舞台に障害者と交流 真岡でイベント、バッグ作りなど

下野新聞 2017年7月7日

昨年12月に行われたイベントでの読み聞かせの様子

【真岡】障害者への理解を深めることなどを目的に、地域住民らが障害者とバッグ作りや本の読み聞かせなどを通して交流するイベント「図書館プロジェクト」が27、28の両日、田町の市立図書館で開かれる。

市内で福祉活動を展開する各種団体の連携を模索していた県障害者相談支援協働コーディネーター渡辺大樹(わたなべたいき)さん(38)が2015年、同図書館や真岡女子高JRC部、障害者が就労する「そらまめ食堂」にイベントの企画を提案。同12月に初めて開催され3回目となる。

今回は親子連れを中心に、より多くの人に来場してもらおうと開催日を小学校などの夏休みに設定。期間も例年の半日から2日間に延長した。

参加団体も増え、内容も刷新しているという。



性的少数者への理解、虹色ステッカーで訴え 三田市 神戸新聞 2017年7月7日

性的少数者への理解を広げるため、市が作成したステッカーとシール=三田市役所

同性愛者や性同一性障害者ら性的少数者への理解を広げようと、兵庫県三田市は「理解者」「味方」であることを示す虹色のステッカーを作り、掲示に協力してくれる店や事業所を募り始めた。行政がこうした掲示物を配るのは珍しく、市は「当事者が安心できる空間を増やしたい」としている。(山岸洋介)

市は昨年5月、市民文化室長と課長13人による庁内委員会を設け、性的少数者への支

援策を検討。先進地の視察や当事者への意見聴取をしたり、職員研修や市民への啓発講座を開いたりしてきた。

ステッカーは、性的少数者の権利を訴える旗「レインボーフラッグ」にちなみ、赤、だいだい、黄、緑、青、紫の6色で構成。縦7・5センチ×横10センチで、味方を意味する英単語「ALLY」の文字をあしらった。

作成のきっかけは、担当者が性的少数者から聞いたエピソード。大阪の飲食店に入った際、民間の作成とみられる同種のステッカーが張られていて「すごく居心地が良かった」と話していたという。

協力する店や事業者は、市にステッカーを申し込む。研修や講座を受ける必要はないが、希望者には基礎知識や配慮すべき点に分かるビデオを見て学んでもらう。

市は窓口でも適切な対応ができるように、研修を受けた職員には虹色のシール（直径2センチ）を配布。6月から職員が名札に張り、啓発にも努めている。

また公共施設の多目的トイレには順次、性別を問わず利用可能一と表示し始めた。住民が提出する各種申請書から「性別欄」を極力なくし、専門員による相談日を設けることも検討する。

担当者は「誰もが自分らしく生きられるよう、社会の意識向上に努めたい」としている。市人権推進課 TEL 079・559・5148



周囲が変える障害の重さ 想像力をたくましくしよう 毎日小学生新聞 2017年7月6日 日本障害者協会代表、藤井克徳さん＝東京都中野区のきょうされん全国事務局で2017年6月27日、望月麻紀撮影



ほうじんにほんしょうがいしゃきょうぎくたいひょう ふじいかつりの
NPO法人日本障害者協会代表 藤井克徳さん

ふじいかつりの しょうがい ひと く
藤井克徳さん（67）は障害がある人たちが暮らしやすい
しゃかい じつげん しょうがいしゃだんたい りーだー ほりつ せいど ととの
社会の実現を、障害者団体のリーダーとして、法律や制度を整
えるよう政府などに求めてきました。自身も目に障害がありま
さがみはらしょうがいしゃせつさきしょうじけん ねん じけん わす
す。相模原障害者施設殺傷事件から1年。事件が忘れられそう
な風潮を心配しています。【まとめ・望月麻紀】

わす さべつ
忘れることも差別

じけん じゅうど しょうがい にん いのち うぼ
事件では重度の障害がある19人もの命が奪われました。

はもの ししやすう せんごさいあく じけん い ほんとし ころ しゃかい きゅう
（刃物による死者数で）戦後最悪の事件と言われながらも、半年たった頃から、社会は急に
じけん とお じつかん
事件から遠ざかってしまったというのが実感です。

じけん げつかん ちてきしょうがい ひと でんわ
事件から2か月間、知的障害のある人たちから電話がひっきりなしにかかってきました。
こわ うった ないよう じけん お ひこく しせつ ちどかいじよしゃ ふあん
「怖い」と訴える内容でした。事件を起こした被告が施設の元介助者だったことから、不安
が増したようです。被告が事件前、精神科に入院していたことから、「精神障害者に対す
しゃかい へんげん ま ふあん おも しょうがい ほんにん でんわ おお
る社会の偏見が増すのではないかと不安に思う、障害のある本人からの電話も多かった
です。1年たちますが、今も相談の電話はかかってきます。

でも、早くも事件が忘れられようとしている。これも障害者差別ではないでしょうか。亡くなった19人のためにも、社会全体で事件に向き合い続けることが必要です。

社会に潜む優生思想

この事件は、特別な個人による事件です。しかし、それだけでは済まされません。彼はこの社会で育ってきたのですから、彼の言葉や行動は、社会に潜んでいる優生思想に後押しされたものです。

優生思想というのは、優秀なものだけ残そうという考えです。差別や偏見は誰もが持っています。自分は障害者にはならないと錯覚しているのです。

第二次大戦中には、ドイツのナチス(ヒトラーが率いた政党)が「生きる価値のない生命」だとして、障害者20万人を抹殺したことがあります。T4作戦と呼ばれています。医師や看護師が自ら進んで関わりました。市民は気づいていたのに、見て見ぬふりをしていました。

自分の中にある差別や偏見と絶えず葛藤したり、友達と議論したりして、想像力をたくましくする必要があります。そのためには、障害のある人と接することです。お年寄りや外国人、ベビーカーを押すお母さんでもよいのです。身近にいる、自分とは違う人と接することが大切です。

障害者除く社会、弱くてもろい

ところで、みなさんの周りに障害がある人はいるでしょうか。事件で狙われたのは、施設に入所している重い障害がある人たちでした。

障害者が地元で生き生きと暮らしていけるようにするのか、遠くの施設で集まって暮らすようにするのか。国の政策の水準(レベル)が、障害者に対する人々の見方をつくるのです。

ぜひ、知ってほしいことがあります。障害者権利条約という世界のルールがあります。「全ての障害者は、心と体がそのままの状態でも尊重される権利がある(第17条)」などと定めています。障害とは何かについても説明しています。目が見えない、耳が聞こえない、という本人がもっている障害に加え、とりまく環境によって重くも、軽くもなるとしています。子どものみなさんを含めた人の態度や環境が、障害の重さを変化させるのです。

この条約は、日本も受け入れています。そのために、障害者基本法や障害者差別解消法なども整備されてきました。しかし日本ではとかく、市民は法律ができると安心してしまいます。法律というのは、使わないとたちまちさび付いてしまいます。

障害者を締め出す社会は弱くてもろいものです。逆に、障害者が大事にされる社会は誰もが住みやすい。子どもの皆さんがもつ柔軟性、豊かな想像力にこそ、大人にはない、差別をなくす糸口があるのではないのでしょうか。期待しています。=つづく

しやく ぶろ ふ り る
□ プロフィール ねん ぶく いけん とうきよとりつこだいらようごがっこう げんざい
1949年福井県生まれ。東京都立小平養護学校（現在の
とりつこだいらとくべつしえんがっこう せんせい や ぜんこくはつ せいしんしょうがいしゃ きようどうさぎようしよ かいせつ
都立小平特別支援学校）の先生を辞めて、全国初の精神障害者の共同作業所を開設。
きようどうさぎようしよ ぜんこくそしき せん むりじ
共同作業所の全国組織「きょうされん」専務理事。

■ことば 障害者権利条約

しょうがい ひと ひと たいせつ しゃかい め ぎ ねん こくれん う
障害がある人もない人も、みんなが大切にされる社会を目指して、2006年に国連で生
まれた世界のルールです。社会の差別や偏見をなくし、ただ生きるのではなく、障害があ
る人もそれぞれの生き方が大切にされなければならないとしています。日本は、障害者団体
が「障害者の意見を聞き、法律や制度を整えてから条約の批准（承認）を」と求め、
こくれんかめい こくちゅう ほんめ ひじゅん じょうやく まち くに どうい
国連加盟193か国中141番目に批准（条約を守ることに国として同意すること）しま
した。

多様な人と生きる時代 障害者は目の前に

毎日小学生新聞 2017年7月7日

しゅうぎいんぎいんの だせいこ
衆議院議員野田聖子さん

しゅうぎいんぎいん の だせいこ おち しょうがい ちょうなん まさき かあ
衆議院議員の野田聖子さん（56）は、重い障害がある長男・真輝さん（6）のお母さ
んです。真輝さんの誕生で「世界が広がった」と言います。一方で、19人の障害者の命
ま さ き たんじょう せかい ひろ い ippō じん しょうがいしゃ いのち
が奪われた相模原障害者施設殺傷事件には心を痛めてきました。母親として、政治家とし
らば さがみはらしょうがいしゃしせつさっしやうじけん こころ いた ははおや せいじか
て、事件や障害者差別にどう向き合っているのでしょうか。【まとめ・望月麻紀】
じけん しょうがいしゃさべつ む あ (もちづきまさき)

「いつか起きる」 恐れていた事件

まさき こんしゅん とうきょうと とくべつしえんがっこう にゆうがく おも しょうがい う
真輝は今春、東京都の特別支援学校に入学しました。重い障害をもって生まれ、これ
までにかい しゆじつ う いま きかんせつがい い ちよくせつえいよう い
までに12回の手術を受け、今も気管切開と胃ろう（胃に直接栄養を入れること）をして
います。あか せいかく ず
いますが、明るい性格で、いたすら好きです。

せんじつ せんせい か がっこう れんらくちやう よ わら がっこう おんな こ ちゆー
先日、先生が書いてくれた学校の連絡帳を読んで笑いました。学校で女の子にチューを
しようとして、ちゅうい よくじつ いちど ちゆー
しようとして、注意されたのです。翌日、もう一度、チューをしようとしたので、先生に
まさきくん こえ か な みち ある ちが
「真輝君」と声を掛けられたら、投げキッスをしたそうです。道を歩いていると、すれ違う
ひと は いた っ ち ち もと きがる おう がいこくじん
人にハイタッチを求める。気軽に応じてくれるのは、とかく外国人です。

まさき いっしょ く みぎて うご あ まえ おやこ あいだ
真輝と一緒に暮らしていると、右手が動かないことも当たり前のことです。親子の間で
しょうがい いしき かわ いちぶ たと めがね とう
障害を意識することはありません。彼の一部でしかない。例えば、眼鏡をかけたお父さん
がいる家では、いえ どう き おな
が、お父さんとはそういうものと、気にならないのと同じです。

かわ ら かわ よ なか み かく まち なや よ なか
ですが、彼が生まれたとき、彼を世の中に見せるか、隠して守るか、悩みました。世の中
には「障害者はなんでいるのか」という、せんざい ひてい かんが も いちぶ ひと
存在を否定する考えを持つ一部の人がいるから
です。しょうがいしゃ かね ひと かんが ひと じぶん ふこう しょうがいしゃ
障害者を「お金がかかる人」と考える人たちです。「自分が不幸なのは障害者がい
るからだ」とあやま かんが も ひと かわ ら あらた き
誤った考えを持っている人もいます。彼を産んでから、改めて気づかされ
ました。

そうした考えを持っている人はいつの時代もいますが、かつては口に出して言うのは恥ずかしいことでした。ところが今の時代、あからさまに言うようになってきました。私も言われました。だから、事件が起きた時には「いつか来るだろうと恐れていたことが起きた」と思いました。

大人になって偏見を身につけてしまってから障害がある人と出会っても、ごちなくなります。世の中にはいろいろな人がいることを子どもの頃から知ってほしい。「多様性」が大切だといわれる時代です。言葉も顔も宗教も食べる物も違う世界の人たちと一緒に生きていく。目の前にいる障害がある人や、自分とは違う人とふれあえないというのは逆行しているように思います。そもそも、みんな一人一人違うのですから。

誰もが通える学校に 政治家として努力

そのためにも政治家である私は近い将来、一つの学校にいろいろな子どもたちが通えるようにしたいと頑張っています。地域の学校に通い、レベルに応じて必要な支援も受けられるようにしたい。

まずは、医療的ケアが必要な子どもが学校に通えるように法律を用意したり、学校に看護師を配置する予算（国のお金）を付けたりしました。「永田町子ども未来会議」という政党を超えて協力する国会議員10人ほどで実現させました。重い障害があっても学校に行きたい子が全員行けるように、人や道具、通学の手段をさらに整えていきたいと考えています。

小さな子どもたちが幸せに暮らせることは、政治家としての最大の喜びです。子どもは大人にとって大事なメンター（指導者）です。みなさん、どうしてほしいか私に伝えてください。ちゃんと返事をします。＝おわり

□プロフィール 1960年生まれ。上智大外国語学部卒。93年衆院選で初当選。郵政大臣や自民党総務会長などを務めた。現在8期目。2011年に真輝さんを出産した。

■ことば 医療的ケア

医学的な知識や技術が必要な生活の手助けのことです。たとえば、口から肺へ向かう気道にたんが詰まってしまうと息ができませんので口や喉からたんを吸い出したり、鼻に通した管から栄養剤を流し入れたりすることです。以前は医師、看護師、保護者しかできませんでしたが、法律が改正されました。2012年4月からは、研修を受けて認定されたヘルパーや保育士、学校の先生もできるようになりました。

